（第3種郵便物認可）　2014年（平成26年）2月25日（火曜日）　讀賣新聞

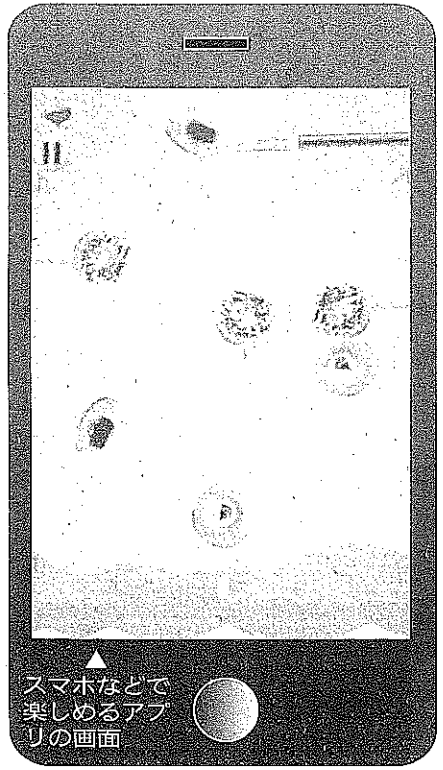
「はだのドーナツ」で遊ぼう

人気復活へ スマホのアプリ

「花束」包装で話題に

秦野市のご当地スイーツ「はだのドーナツ」の売り上げアップを狙い、秦野菓子組合（水島豊組合長、加盟29店）が、スマートフォンやタブレット型端末で遊べるゲームアプリを開発した。若者の間で知名度を上げ、自慢の逸品を味わってもらおうという作戦だ。（中村良平）

ブーケを模したパッケージの「ドーナツブーケ」



▲スマホなどで楽しめるアプリの画面

はだのドーナツは、地場産小麦100％で作った生地に、いずれも名産の落花生（ピーナツ）、八重桜の塩漬け、イチゴをトッピングした3種類がある。油で揚げない焼きドーナツ。真ん中の穴がない円形やハート形で、串が刺さっていて手を汚さず食べられる。

販売開始は2012年6月。単品（税込み150円）よりも、3種を一つのセットにした「ドーナツブーケ」（同500円）が話題を集めた。

6月のジューンブライドにあやかり、花束のようなラッピングにしたのが奏功し、結婚祝いのミニギフト用にと全国から注文が殺到。取り扱う8店舗で月に計1万個が売れる人気ぶりだったという。

しかし、徐々に売り上げが伸び悩み、月1500個程度にまで減少。そこで、人気復活の起爆剤として考え出されたのが、ゲームアプリだ。菓子組合の販売促進の会議中に、若手メンバーが発案。組合から相談を受けた秦野商工会議所などで作る「はだのブランド推進協議会」がゲームソフト会社に持ちかけ、この3者でアプリを開発した。

その名も「ゲームdeはだのドーナツget！」。画面の上から次々と降ってくる3種のドーナツを指で左右に振り分け、同じ種類を重ねると得点が入る仕組みだ。秦野ゆかりのキャラクターも登場する。

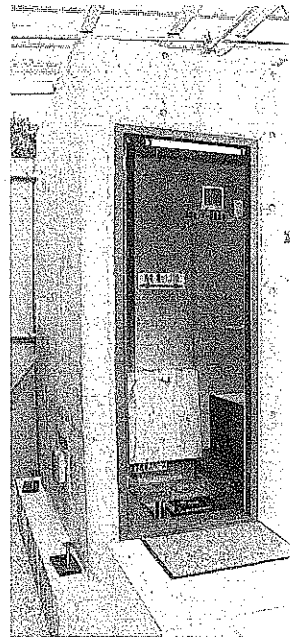
開発者の一人、同協議会の山本ゆかりさん(33)は「食べ物なので乱雑に扱うのを避けたり、ドーナツの串の部分が画面両脇に刺さるようにしたり、工夫を凝らしました」と話す。終了時には、秦野の名所やドーナツ販売店が現れるようにもなっている。

「はだのドーナツ　アプリ」で検索すれば、ダウンロードができる。3月2日まで、高得点を獲得した上位の人にドーナツブーケと組合加盟店の自慢のお菓子をプレゼントするキャンペーンを開催中だ。

問い合わせは、はだのブランド推進協議会事務局（0463・81・1355）へ。

よる倒壊にもビクともしないというのがウリだ。

商品名は「命庫（いのくら）」。金庫が貴重品を守るように、シェルターが生命を守るとの思いから、大須和人社長(64)が命名した。



「命庫」の屋内地上型（標準タイプ）と、考案した大須社長

1978年設立。
12人。特許を取
金具を使って、
ネルと地面の基礎に固
ンクリートを流し込み
化させるなど、住宅の

車の部品 機械が手渡し

川崎市高
・製造会社
井高雄社長
自動車な
で、必要な
を作業員に
る装置「M
を開発した

企業

東京商工
店は、県内
に休廃業や
が1411
10年で最多
した。倒産
てきている
にまで至る
継者が確保
するケース
は「金融機
などして、
廃業を選択
た」と分析
同支店の
昨年1年間
は前年（1
・3％増。
は東京、北
で5番目に